

AAALA ニュース 134号

短信欄

* teleSUR 主要ニュース 一行紹介

26 April

1 . 19カ国が BRICS サミットへの出席を表明 (Algeria, Argentina, Egypt, Indonesia, Iran, Kazakhstan, Malaysia, Nigeria, Saudi Arabia, Thailand, UAE)
最近では BRICS の GNP 成長率は G7 をうわまわる。

2 . イラン、「石油輸出が昨年比 8300 万バレル増となる」と発表
欧米諸国による一方的な制裁措置は続いているが、その有効性は失われつつある。

3 . パラグアイ：左派候補エフライン・アレグレが選挙政策を発表
Paraguay: Leftist Candidate Alegre Presents Government Program

エネルギー開発、包括的な経済成長、健康、社会保証、教育促進をうたう。

4 . イギリス、ウクライナに劣化ウラン弾を贈る
British Depleted Uranium in Ukraine

英空軍大臣、「ウクライナに英国製戦車用の砲弾数千発を送った。そこには劣化ウラン製装甲弾も含まれる。

5 . コロンビア大統領、バイデンにベネズエラ制裁の終結を求める
Colombian President Asks Biden to End Sanctions on Venezuela

「ベネズエラの人々は、圧力や制裁を受けずに、自分たちの運命を自由に決めるべきだ」と主張。

* 次の日の teleSUR トップニュース

ペルー、国境地帯に 60 日間の非常事態宣言。



* 新藤さんからもう一つ情報提供

長いのですが、内容上短信欄に載せたほうが座りが良いと考えました。

軽薄な亡命—ジャリエル・ロドリゲス投手の選択

■ジャリエル・ロドリゲス投手突然の失踪

3月29日（水）、日本プロ野球シリーズの開幕直前、中日ドラゴンズの支配下選手である、キューバ出身のジャリエル・ロドリゲス投手（26）が、同日に中部国際空港着の航空機で再来日する予定でしたが、未搭乗で失踪状態と報道されました。ジャリエル・ロドリゲス投手は、第5回WBCキューバ代表として先発2試合に登板し、計7回1/3を投げ、防御率2.45。チームの4強（準決勝）進出に貢献しました。ロドリゲス投手は、20年に育成投手として中日に入団し、同シーズン中日に支配下登録されました。昨季は中継ぎエースとして56試合に登板し、防御率1.15、45ホールドポイントの好成績をあげ、最優秀中継ぎ投手賞も獲得しました。昨年11月に代理人のキューバ野球連盟（FCB）と年俸2億円（推定）で2年契約を締結し、ロドリゲス投手も2月にキューバ代表として沖縄入りした際に中日ドラゴンズのジャリエル投手日と契約し、3月9日には中日ドラゴンズにより、支配下選手登録の公示もされていました。

WBCの準備で2月にキューバ代表が来日した際にサポートしていた柴田穰氏は、「ジャリエルが、今季も中日でプレーすることを考えていたのは間違いない。ただ、WBCで4大会ぶりにベスト4入りし、その原動力となったジャリエルに、準

決勝が行なわれるフロリダでメジャー・リーグ関係者が接触したことは容易に想像できる。

今大会から、アメリカへ亡命してメジャーでプレーするヨアン・モンカダやルイス・ロベルト（ともにシカゴ・ホワイトソックス）もキューバ代表入りしていたため、ジャリエルのような若手が彼らから情報を得られる機会もできたであろう」と述べています（YahooNews23.04.03）。



ドラゴンズのジャリエル投手

■ジャリエル、メジャーリーグとの契約を目指し、ドミニカに亡命

ドラゴンズ球団が本人と連絡が取れない状態が続く中日、一部海外メディアは、ジャリエルは米大リーグ球団との契約を目指すため亡命し、ドミニカ共和国に滞り、大リーグとの交渉を待っていると報じました。4月10日現在、ジャリエルは、「近い将来、メジャーに挑戦しようとしている」と、マイアミ在住のスポーツ・ジャーナリストのフランシス・ロメロ記者が報じています（スポニチ、23.04.10）。キューバ人選手が、米国に直接亡命せずに、ドミニカ共和国のような第三国に亡命するのは、その国で居住権を確立してから MLB クラブと契約をすれば、MLB の規則や米国の法律に関係なく、はるかに高額な契約金額となるからです。

フランシス・ロメロ記者フランシス・ロメロ氏は、数日前にベースボール・アメリカが発表した今回の WBC の有望株トップ 10 にキューバ人投手のジャリエル・ロドリゲス、リバン・モイネロ（ソフトバンク）とライデル・マルティネス（中日ドラゴンズ）も含まれていることから、ロメロ氏は、ジャリエル・ロドリゲスの実績、履歴、最速 161 キロの直球に、変化球を交える投球スタイルを考慮すると、「数年契約で数百万ドルの契約」に達する可能性があると述べています。ジャリエルは、

大リーグでのプレーを希望しており、セントルイス・カーディナルスやホワイト・ソックスが興味をもっていると報じられています。

■キューバ野球連盟、ジャリエルの契約違反に抗議

一方キューバ野球連盟（FCB）は 28 日（日本時間 29 日）「ジャリエル・ロドリゲス選手が、野球契約を結んでいる日本のプロリーグ、中日ドラゴンズに入団しないことを決定したが、これは、中日・ジャリエル・ジャリエルの代理人、キューバ野球連盟との間の 2023 - 2024 の契約に違反するものである。この契約の規定、『本契約の履行がキューバから日本へ出発した時点から始まり、キューバに帰国した時点で終了すること』を選手は認め、承諾している。また、『正当な理由なく選手側が契約に違反した場合、FCB の明確な許可なく他の球団や第三者と契約することは WBC にキューバ代表としてプレーしたジャリエルできない』ことも承諾している。この契約の一文に従い、FCB は損害賠償として 1,000 万ドル（約 13 億 5000 万円）を選手に対し要求する」と発表しました（Cubadebate,23.03.28;EFE23,03.30）。なお、損害賠償の請求先については、原文からは明確でないという解釈もあります(OnCuba23.03.29)。

一部のメディアは、ジャリエルは、「米大リーグの『団体交渉協定 2017-2021』は、25 歳以上で、海外のプロリーグで 6 シーズン以上の経験を積んだ選手がプロとなることを定めている。この条件を満たすことで、他球団と選手の間で自由に契約交渉ができる」と定められているので、米大リーグと交渉できると報道しています（EFE,23.03.30）。

しかし、かつて数々の大物キューバ人選手の亡命に関わったキューバ系アメリカ人で著名なブローカーのジョー・キューバスも、「ジャリエルは、ドラゴンズの移籍の了承が必要だ」と述べています（DiariodeCuba,23.03.30）。

■日米間野球選手契約、日本プロ野球協約にジャリエルは縛られる

実際、日米間選手契約に関する協定が、1998 年に両国のコミッショナー間で締結されており（2003 年改正）、日本球団の契約下にある選手は、日本球団の承認がない限り、大リーグ球団とは交渉・契約は一切できないと明記されています。即ち、ジャリエル・ロドリゲス選手は、中日ドラゴンズの承諾がない限り、大リーグと交渉・契約はできないのです。

また、日本プロ野球の野球協約第 60 条第 2 項には、(2) 制限選手と制限選手名簿（レストリクテッド・リスト）の規定があります。これによれば、「選手がその個人的事由によって野球活動を休止する場合、球団はその選手を制限選手とする理由を記入した申請書をコミッショナーに提出する。コミッショナーが、その選手を制限選手とすることが正当であると判断する場合、その球団の申請は受理され、コミッショナーによりこの協約の第 78 条第 1 項の復帰条件を付し制限選手として公示

され、制限選手名簿に記載される。公示された選手は所属球団に戻らない限り、いかなる球団においてもプレーはできない。また球団は、公示日から1日につき年俸の300分の1を減額することができる」とあります。したがって、中日ドラゴンズは、ジャリエル・ロドリゲス選手を制限登録する意向ですので、ジャリエル・ロドリゲス選手は、日本でも他の球団でプレーできません。

■日本でプレーしたキューバ人選手の亡命問題

ジャリエルのように、日本球団と契約し、亡命を図り問題となったケースは他にもあります。元 DeNA のグリエル兄弟、元ソフトバンクのコラスらがいます。兄の Y・グリエルはキューバ政府が選手の海外移籍を解禁した14年に DeNA に入団し、62 試合で打率 3 割 5 厘、11 本塁打の成績を残しましたが、15 年はけがを理由に来日せず、4 月に契約違反により契約解除が発表されていました。弟のルルデスも同時期に故障を理由に来日が延期となり、制限選手の措置が取られ、その後、退団となっていました。最も似たケースは、福岡ソフトバンクの一員でありながら 2020 年に亡命し、制限選手とされたオスカル・コラスの事例です。コラスは、2017 年 5 月、3 年契約で FCB から派遣され、育成選手として入団。2019 年 6 月に支配下登録選手となりました。2020 年 1 月に帰国中日に亡命し、ソフトバンクは、コラスを制限選手としたため、一軍登録外国人枠 4 名をはみ出す残りの外国人選手 1 名のメジャーリーグ行きを認めなければならなくなるため、見返りを求めずに 2020 年末に放出することにしました。しかし、ジャリエルは、このケースにも当たらない、明らかな契約違反です。

一方で、開幕目前の出来事にファンの間では動揺が広がる中日、WBC キューバ代表での戦いを終え、チームに合流した抑えのライデル・マルティネス投手(26)は、3月28日バンテリンドームでの練習に参加し、同僚の選手が「遅れてきたくせにキューバからのお土産はないのか?」と質問すると、「俺、俺が、お土産」と発言。さらに、「みんなと一緒に合流できてうれしいです」と話し、WBC 日本代表の優勝を祝福。「自分が WBC で何もできなかったので、中日ドラゴンズで優勝できるように頑張りましょう」と、今季の意気込みを伝えました

(Jcast,23.03.30)。ジャリエルとライデルの取った態度の差異には、ジャリエルの性格や考え方も関係していることは否めません(YahooNews,23.04.03)。ソフトドラゴンズのライデルバンクの中日南米担当スカウトを務める萩原健太氏は、「その選手の実力やポテンシャルはもとより、選手の性格や人間性などもしっかり調査する。試合だけでなく、練習をどのような姿勢で行っているかなども自分の目で見て確認するが、トライアウト合格のコラスは、内面を把握する前段階で入団したので、問題を起こすのを防げなかった」と語っています(Full-Count,20.02.26)。

■本質的な問題は、米国とキューバの政治問題

しかし、問題は、本質的には、キューバ野球連盟(FCB)と米大リーグ(MLB)の間にキューバ人選手がプレーできる協定がないことです。1959年の革命勝利前

は、キューバ人野球選手は自由に米大リーグと契約してプレーし、米大リーグの選手もキューバでのウインターリーグに参加していました。革命勝利後、1961年1月米国政府は、一方的にキューバとの国交を断交しました。1962年2月米国政府は、キューバに対し経済封鎖（正確には対キューバ経済・通商・金融禁止政策で、1992年以降毎年国連総会で98%以上の賛成で解除が決議されています）を断行し、両国の経済関係が断絶しました。さらに、1963年7月米財務省は、敵国通商法に基づき、キューバ資産管理規則（CACR）を発行し、制裁の範囲を広げ、キューバとのすべての商業活動を財務省が規制するようにしました。CACRの目的は、「キューバ政府を経済的に孤立させ、米ドルを奪う」ことでした。これにより、キューバ人野球選手は、大リーグでプレーすることができなくなりました。1963年3月キューバ政府は、野球、ボクシングを含むすべての職業スポーツを禁止しました。職業野球に代わって、この年1月キューバ・国内野球シリーズが発足し、その後毎年開催され、現在まで62回のシリーズが開催されています。その結果、1961年以降、数十人のキューバ人野球選手がアメリカでプレーする機会を求めて亡命しました。

1976年、キッシンジャー国務長官の時代に、米玖親善野球交流の話がありましたが、それは最終的に実現せず、翌年、MLBは一切のキューバ人選手との交渉や勧誘を禁止しました。1991年キューバ人投手レニー・アロチャが亡命した後、MLBは1977年の指令を修正し、亡命キューバ人であれば、選手との交渉、契約を認めました。その結果、さらに数十人のキューバ人選手がキューバから亡命しました。契約金額は、キューバでの収入と比較して高額なものでした。

1999年、クリントン政権はキューバとの関係の正常化に取り組み、同年3月、ボルチモア・オリオールズがハバナとボルチモアでキューバ代表チームとエキシビジョンゲームを行いました。試合の収入の支払い問題がおり、米国の経済封鎖政策により、試合の利益はすべてキューバで活動するキューバ政府の管理下でない慈善団体に寄付することが義務づけられました。また、米国内でも共和党をはじめ、反対意見も強く、それ以上は進展しませんでした。一方、キューバ野球連盟は2014年から、日本、メキシコ、韓国などの海外リーグへの出場を各国と協定を結び、認めるようになりました。

■オバマ政権時代、MLBとFCBが移籍許可協定成立

2014年12月、米国（オバマ政権）・キューバ両政府（ラウル・カストロ政権）は、国交回復を進めることで合意し、翌年7月国交を回復しました。この緊張緩和の過程で、2015年2月米国財務省はMLBにキューバ人選手と契約するのに、財務省の許可は不要と指示しました。この新しい状況の中で、今回WBCにキューバ代表としてプレーしたヨアン・モンカダ選手は、アルゼンチン＝米国籍をもつ女性と結婚し、合法的に出国し、レッドソックスと複数年契約の315億ドルで契約しました。2015親善試合を観戦するオバマとラウル年12月MLB代表が、FCBと契約

条件の意見交換のため、訪玖し、2016年3月、FCBは、キューバ国籍を維持したままであれば、キューバ人選手大リーグと契約可能としました。また、キューバ政府は、選手の養成に投資しているので、若干の手数料（契約金額の約20%）受け取るのは当然と述べました。そして最終的には2018年12月FCBとMLB、25歳以上のキューバ選手がメジャーリーグのチームと自由に契約できる契約に合意しました。選手は就労ビザで米国に行き、米国チームはFCBに選手の年齢などに応じて15パーセントから25パーセントの手数料を支払うというものでした。

■トランプ政権、MLBとFCBの合意を破棄

ところが、2019年1月に発足したトランプ政権は、キューバに対し新たな制裁の導入など、オバマ政権時代の関係正常化路線を後退させました。トランプ政権のキューバへの圧力政策に伴い、米国の財務省外国資産管理室（OFAC）は、FCBは政府機関ではないとして、MLBとFCB間の金銭取引を認めていたオバマ政権の方針を転換し、「キューバ野球連盟は、キューバ政府の一部であるので、同連盟への支払いはキューバ政府への支払いである。MLBのFCBへの支払いは認可されないと判断」しました。その結果、同年4月、MLBは、FCBの間で締結していた協定を破棄しました。その後、2021年1月に発足したバイデン政権は、基本的には、トランプ・オバマ路線を覆すトランプ政権のキューバ敵視政策を引き継いでおり、現在もMLBとFCBの間にキューバ選手の移籍協定はありません。MLBとFCBの関係は、90年代の状況に戻ってしまったままです。中日日の加藤宏幸球団代表は「（ジャリエルから連絡は）ない。統一契約書を交わしているので、現在はドラゴンズの保有選手です、2年契約を結んでおり、現時点でリリースする考えはない」ことを強調しています（スポニチ, 23.04.10）。ジャリエルの亡命問題は、こうした厳しい米玖関係の現実から起きた問題でした。

（23.04.10 新藤通弘）